



No. 7

近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成29年度第2回

しばやま しばやま
柴山港柴山地区
避難港整備事業

【再評価】

平成29年9月

近畿地方整備局

事業の概要

■ 整備目的

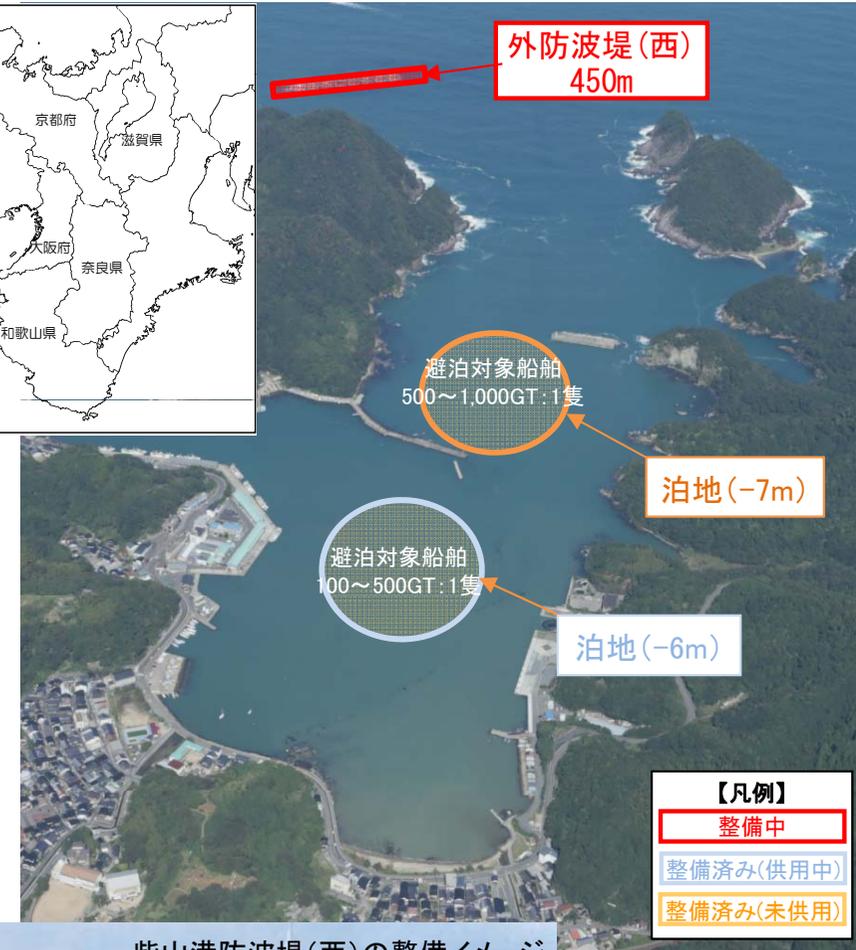
- 全国的な海上ネットワークを形成するうえで、我が国の沿岸航行の安全性を確保するため、全国的な配置を考慮して全国36港が避難港に指定されている。
- 現在、荒天時における京都府北西部から鳥取県東部を航行する船舶の避難に必要な水域が不足している。
- 柴山港においては、100GT～1000GTの船舶を対象として、海難による損失を減少させることを目的として、荒天時におけるこれら対象船舶が避難するために必要となる静穏な海域を確保するため、泊地及び防波堤の整備を行う。

■ 事業概要

施設名	数量	事業期間	事業費
外防波堤(西)	450m	S61～H42	330億円
泊地(-6m)	98,000m ²	H10～H12	16億円
泊地(-7m)	17,000m ²	H11～H12	2億円
合計	—	S61～H42	348億円

※ 「避難港」：暴風雨等に際し小型船舶が避難のために停泊することを主たる目的とし、通常貨物の積卸又は旅客の乗降の用に供せられない港湾で、政令で定めるもの。(港湾法第2条第9項)

■ 柴山港



再評価の視点

再評価の視点	現在の状況	備考												
事業の必要性等に関する視点														
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	前回再評価時点(平成26年12月)から大きな変化なし	航行する船舶の船型及び隻数に変化はみられない。												
2) 事業の整備効果	前回再評価時点(平成26年12月)から大きな変化なし	B/Cの算定方法に変更がない												
3) 事業の投資効果	社会経済情勢等に大きな変化がないため算出を省略	<table border="0"> <tr> <td>前回</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>B/C</td> <td>2.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>残事業</td> <td>B/C</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> </table>	前回				全体	B/C	2.4		残事業	B/C	4.0	
前回														
全体	B/C	2.4												
残事業	B/C	4.0												
4) 事業費の変化	前回再評価時点(H26年12月)から変化なし													
事業の進捗の見込みの視点	進捗率(事業費) 69%	平成29年度末まで投資額： 約239億円 (残事業費：約109億円)												
コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	前回再評価時点(平成26年12月)と変化なし													

事業の必要性等に関する視点

■事業を取り巻く社会経済状況

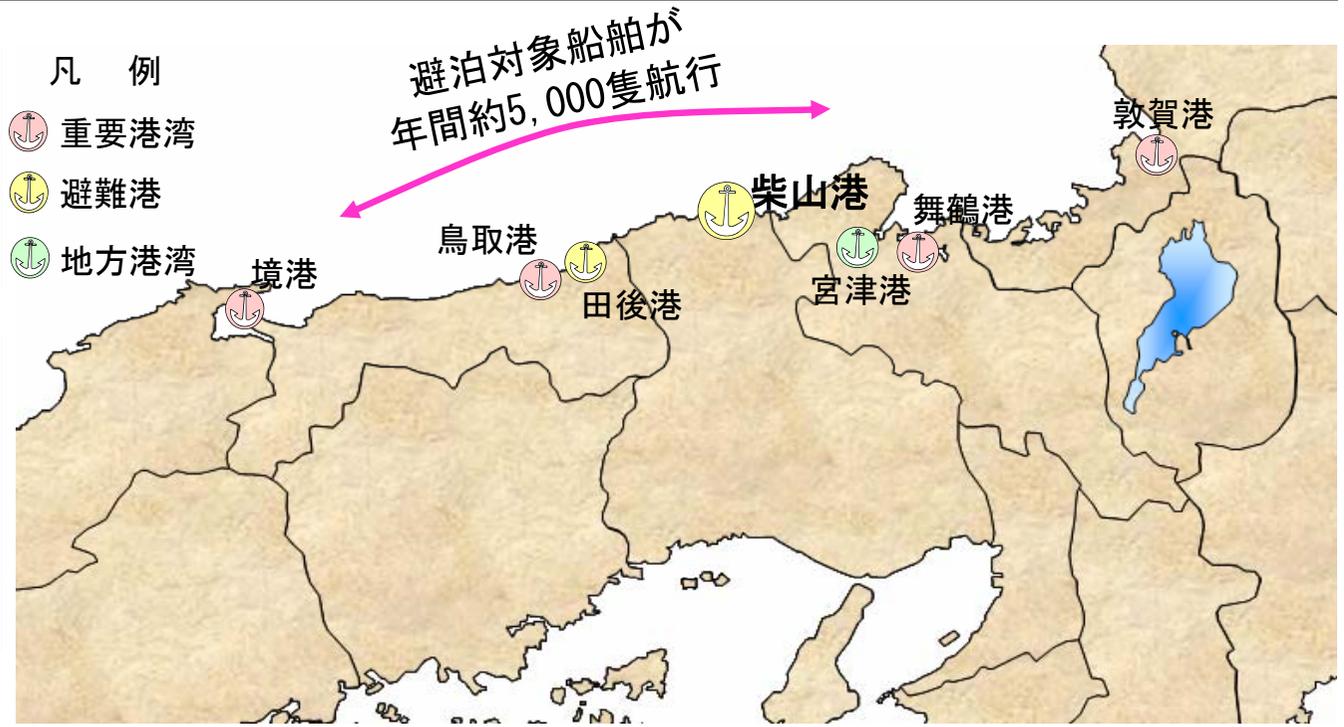
- ◆近年、気象予報の精度向上により、運航の安全性、効率性が上がってきているものの、平成29年度に100GT～3,000GT未満の内航船舶を対象としたアンケート調査の結果によると、4割強の船舶は予測に反した気象・海象条件の変化により航行の支障が生じる、また危険を感じるなどの回答を得ている。
- ◆また、日本海西部沿岸域においては、現在も年間20回程度の海難事故が発生しており、船舶が避難する静穏な海域の確保が引き続き求められている。
- ◆柴山港沖を含む海域を航行する船舶に対し、同じエリアに存在する田後港及び鳥取港とともに荒天時に静穏な避泊場所を確保。（「港湾投資の評価に関する解説書」より年間荒天日数は13.7回を想定。）

■柴山港周辺海域の航行船舶状況

◆柴山港周辺を航行する船舶のうち、避泊対象船舶となる100～1,000GTの船舶は、約5,000隻/年 航行している。

<避泊可能船舶・隻数>

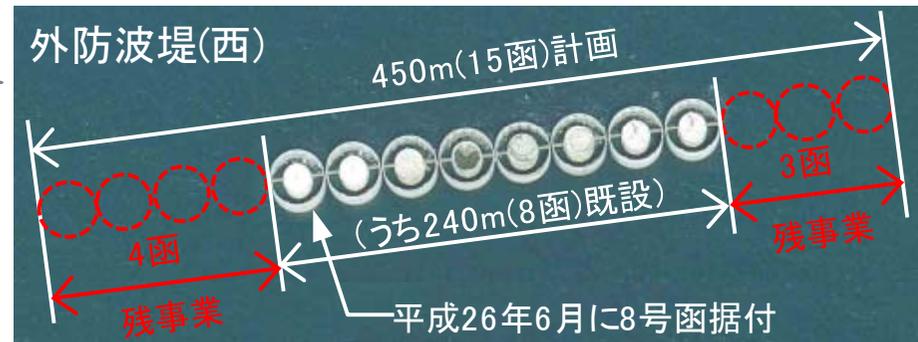
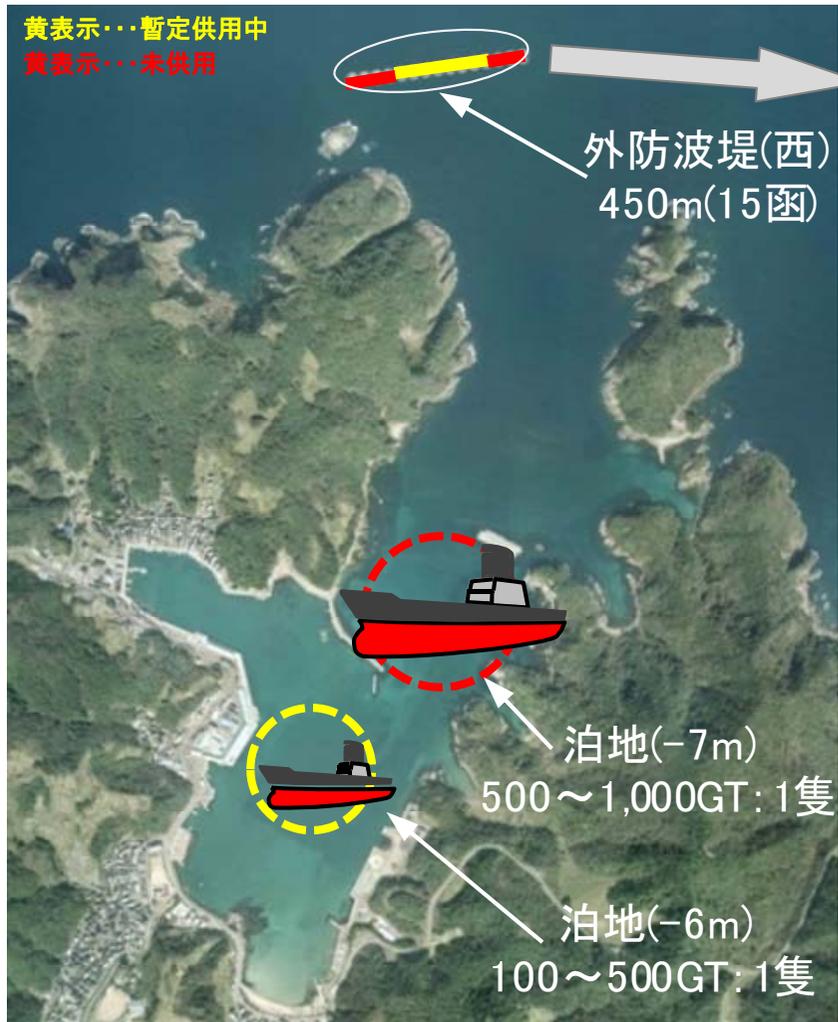
柴山港：100-500GT	1隻
500-1,000GT	1隻(整備中)
鳥取港：1,000-3,000GT	1隻
田後港：100GT以下	



事業進捗の見込みの視点

- 泊地(-6m)及び泊地(-7m)は整備済み。
- 現時点では全体計画に対して、泊地(-6m)の100-500GT=1隻の避泊水域が確保されている。
- 外防波堤(西)は67%まで整備が進んでおり、平成42年度完成に向け着実な事業進捗を図る。

● 本事業の整備状況



● 各施設の整備状況

施設名	数量	事業期間	総事業費	残事業費
外防波堤(西)	450m	S61~H42	330億円	109億円
泊地(-6m)	98,000m ²	H10~H12	16億円	0億円
泊地(-7m)	17,000m ²	H11~H12	2億円	0億円
合計	—	S61~H42	348億円	109億円

※全て直轄事業である。

■兵庫県知事

平成29年8月24日付 土第1310号

近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(回答)

本事業は、避難港である柴山港の静穏水域を確保し、船舶の航行安全に寄与するものであり、事業を継続し、早期完成を図りたい。

なお、事業実施にあたっては、漁船の航行安全性の確保、港内の環境影響の把握、港内静穏度の検証による外防波堤の必要延長の再検討を行い、地元住民・漁業関係者等と十分に協議調整しながら進められたい。

■香美町長

平成29年8月25日付 香建第163号

近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成にかかる意見照会について(回答)

柴山港は、兵庫県北部に位置し、山陰海岸国立公園や山陰海岸ジオパークの中心にあり、海岸線の入り組んだ天然の良港である。

周辺の海域は、東日本～西日本～九州を結ぶ重要な航路筋にあたり、航行船舶の多い海域となっている。

しかし、気象・海象条件が非常に厳しく、過去にも海難事故が多発した海域で、油の漂着など重大な被害を受けています。

柴山港は、但馬沿岸唯一の避難港として重要な役割を担っており、避難港の整備が海上交通ネットワークの安全性及び信頼性の向上や海難事故の防止を図り、船舶の安全航行だけでなく、日本海の豊かな自然や資源を守り、後世へ継承する役割は大きいものがあります。

また、当町の基幹産業である漁業・水産業の振興が図られ地域の活性化に大きく寄与するものと期待しています。

事業進捗により柴山港内の静穏度が向上されておりますが、残事業の進捗に当っては、地元漁協等の港湾利用者の意見を十分反映して頂き、一日も早く目的が達成出来るよう取り組んで頂きたい。

柴山港柴山地区避難港整備事業は、事業の必要性等に関する視点に変更はなく、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を進捗し、早期の供用を目指すことが適切である。

事業継続

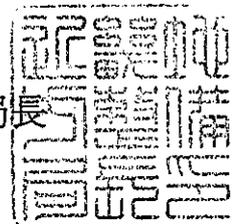


国近整企画65号

平成29年8月3日

兵庫県知事 殿

近畿地方整備局長



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針
(原案)の作成に係る意見照会について(依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対する御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、近畿地方整備局事業評価監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成29年9月4日(月)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成29年8月25日(金)までに、別紙について貴職の御意見を承りたく依頼いたします。

※御意見の送付・問い合わせ先

近畿地方整備局 企画部 企画課 事業評価係

電話 06-6942-1141

FAX 06-6942-7463

(別紙)

(再評価)

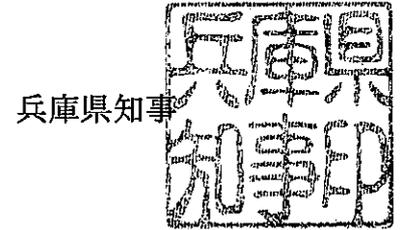
【港湾事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
柴山港 柴山地区避難港整備事業	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

土 第 1 3 1 0 号
平成 29 年 8 月 2 4 日

近畿地方整備局長 様



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成
に係る意見照会について（回答）

平成 29 年 8 月 3 日付け国近整企画 65 号で照会のありました標記の件につきまして、
別紙のとおり回答します。

【柴山港柴山地区避難港整備事業】

兵庫県知事の意見

本事業は、避難港である柴山港の静穏水域を確保し、船舶の航行安全に寄与するものであり、事業を継続し、早期完成を図られたい。

なお、事業実施にあたっては、漁船の航行安全性の確保、港内の環境影響の把握、港内静穏度の検証による外防波堤の必要延長の再検討を行い、地元住民・漁業関係者等と十分に協議調整しながら進められたい。